

## 論文要旨

# 埋立地とは何か

## —「東京湾」における埋立地の変遷と役割—

[誘導展開型]

岩永 翔太（経済学部3年）

指導教員：伊藤 行雄

本論文は、東京湾における埋立地の変遷と役割の考察を用いて、埋立てが都市においてどのような意味合いを持っているかを探ることを目的としている。埋立てとは都市が都市たるためには必要不可欠なものである、ということが筆者の主張である。江戸時代から現在まで断続的に埋立ては行われてきたという事実がある。埋立地の役割は各時代により異なるが、共通してその時代における都市に欠けている要素を補足し、問題を解決する手段として有用性がある。そして東京がごみを自己処理するという意味において自立した都市であり続けるためには、常に埋立てを行わなければならないという必要性があり、これらが筆者の主張の根拠となっている。

これらのことを明らかにするために、第1章では東京湾と埋立地の定義を示し、埋立てを行う主な背景が人口・産業のための土地確保、廃棄物処理を行う土地の確保、流通機能の維持・発展という3点であるということを述べる。第2章ではこの3点に焦点をあてながら東京湾における埋立地の変遷と役割を江戸時代、明治から関東大震災、震災から高度経済成長期、成長期から現在という4つの時代に区分して明らかにする。第3章では第1、2章を踏まえて東京湾における埋立地の変遷と役割の考察を整理し、まず、埋め立てとは何かという問いを明らかにしたうえで、現在では東京湾において新たな埋立地をこれ以上造成することが出来ないという現実に対し、その原因と政策を検討する。そして最後にこれらの考察をしたうえで再度、埋立てとは何かについて明らかにする。

現在、東京湾内には新たな埋立地を確保出来ないにもかかわらず、常に埋立てを行わなければならない状況にあることが東京湾の抱える問題である。近い将来には埋立地が限界を迎え、東京湾における埋立て政策は行き詰まってしまう。これに対処するために筆者としても短期的なその場しのぎの政策でなく、長期的な可能性を秘めた政策を新たな視点から検討することが、都市のもつ大きな課題のひとつと考えている。